

(池田)

名古屋市の発展を概略的に示そうと思う。これは今後の研究において個別に進めて行く場合には、一応理解に~~あ~~おいておき下りものである。

名古屋の市制はM.22年10月1日に施行された。当時。市域は名古屋城を底辺として南にのびた逆三角形の地域で面積13km²余、人口15万7千人であった。その後~~は~~南に伸び、M.40年熱田港の完成を期に熱田町及び小碓村の1部を合併。その結果事務の便宜のため翌41年4月1日に全市を東・西・中・南の4区に分け区内の徴税及び戸籍等の行政事務を処理させた。大戦による急激な経済上の発展は市の東部及び西部への市域拡張を促進し、遂にT.10年16町村の大合併が実現。S.12年3月には庄内町、下之区町、萩野村合併。同年10月市制施行記念日を機に新しく6区を増し全市を千種、東、中村、中、昭和、熱田、中川、港とした。日華事変の勃発と共に~~戦況~~まわりの発展の傾向を示し、そのためS.19年2月北、東、瑞穂の3区を加える13区とした。しかし今次の大戦の結果、市の受けた被害は全市の半に達し戦災及び疎開等により終戦直後の人口は59万7千人に減少。特に市中央部の被害と人口減少が大きかったためS.20年には中、東を合して中区とし、2区となった。その後戦災復興土地区画整理事業の画期的進展により市街地の復興もめざましくS.28年10月町村合併促進法の施行により全国的に町村規模の適正化がはかられた。S.30年愛知郡猪高村、天白村、海部郡南陽町、富田町、西春日井郡山田村、楠村の合併。

38年守山市、鳴海町、39年大高町、有松町を合併。なお本市将来計画基本要綱によれば、S.60年の本市想定区域は都市計画、上必要とされる15km圏に含まれる周辺10町村(上野、横須賀、西枇杷島、清洲、新川、甚目寺、弥富、大治、十四山、飛鳥)を併せた地域が計画されている。

終戦後に於ける研究は、道路、交通について、その施行の目的、完成による経済的影響等を中心に行なう。

ex. 名古屋市の街路形態は、中心部では約500m、周辺部では約1000m間隔で巾の広い幹線街路を配し、その中向に補助幹線街路を配置する計画されている。特に2本の100m道路が市中心部でT字形に交わり、これに新堀川の空間が接続することにより、緑地帯を導入することにより都市部を4分に強力な防火帯を形成している。

現在の交通整備の目標は、大體か短時間に集中する通勤通学輸送を主体とした旅客輸送の処理にあり、このためには高速鉄道の整備と路面交通の整備とを考慮し、総合的、有機的な交通網の形成が必要。

つまり路面電車のS.60年までの廃止、バスの拡充、輸送主体としての高速鉄道の拡充を目標とする。